



海ごみはどこからやって来る？講座 開催しました！



- 日時 令和4年5月21日（土）9：30～11：30
- 会場 高松市東部下水処理場北側の海岸
- 講師 谷 光承 氏（かがわ海ごみリーダー）
- 講師アシスタント 幸池 麻美 氏

5月21日（土）、高松市東部下水処理場北側の海岸にて、「海ごみはどこからやって来る？」講座を開催し、17名が受講しました。本講座は、海岸フィールドワークを通じて海ごみがどこから来るのかを学び、自分の生活と海のつながりを考えるきっかけとなることを目的とし、開催しました。

海ごみの調査にあたり、2グループに分かれて自己紹介を行いました。受講者には、学生や初めて参加する社会人の方が多く、SDGsについて興味を持って今回の講座に参加したという声が多く聞かれました。その後、講師の谷光承氏より、海ごみ調査の方法、漂着物の代表的な例、ごみを拾う際の注意事項の説明を聞いた後、海岸に移動しました。



会場で清掃をされていた方にご協力いただき、海岸に漂着しているごみを世界共通の「国際海岸クリーンアップ (ICC)」データカードを使って、ペットボトルやレジ袋、生活雑貨など45品目に分類し、品目ごとに個数を調査しました。ICC調査の結果、今回は「タバコの吸殻・フィルター」が最も多く、漁具や海で捨てられたごみよりも生活ごみが多いという結果になりました。



さらに海岸で足元をよく見てみると、タバコのフィルター、肥料カプセル、マイクロプラスチック、ため池などに生息する菱（ひし）の実など、見逃してしまいがちな小さなごみが多く見られ、受講者たちは、驚いている様子でした。

1時間ほど海岸で調査を行った後、集合場所に戻り、振り返りを行いました。振り返りでは、グループごとに調査の感想をまとめ、代表者が発表しました。「路上に捨てられたごみが雨などで川へ流れ込み、海を漂い、海岸へ打ち上げられるという過程を講座を通じて体感し、学ぶことができた。今後はこの経験を活かし、日常生活を見直していきたい。」などの意見が上がりました。



その後、講師より、日本の海洋ごみはどこからやって来るのか、海洋ごみの現状、ごみが分解される年数、実際の御坊川の清掃活動についての紹介がありました。

最後に、「あなたはどのような海にしていきたいですか？」という講師の問いかけで終了し、海と自分の生活が密接に関わっていることを改めて実感する講座となりました。